Freedom

高校生の人権広報誌

“Freedom” 第8号

2012年1月11日発行

編集　“Freedom” 編集スタッフ

発行　奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

東日本大震災、台風12号により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

東北や紀伊半島の被災地では、鉄道や道路の復旧など、復興への歩みは少しずつ進んでいるようです。しかし、甚大な被害をうけた方々の日常生活が再建されるには、さらに多くの支援が必要です。私たちができることを、みんなで考えましょう!!

『東日本大震災被災地支援』ボランティア活動について

昨年八月、奈良県高等学校生徒会連絡会を中心に、三一校・七九名の生徒が、宮城県や岩手県の被災地で支援活動を行いました。二学期には、ボランティア参加者が、集会や展示により活動の報告を行った学校もありました。今回は、高田商業高校スタッフが自校の参加者にインタビューした内容を紹介します。

★奈良県の高校生として、東日本大震災被災地支援ボランティア活動に行かれた、三年生のS君へのインタビュー

O　Sさん本日は進路の試験でおいそがしいのにインタビューに応じていただいてありがとうございます。私たちは奈良県の高校生が発行する人権広報誌FREEDOMの高田商業のメンバーです。よろしく、お願いします。早速ですが、いつ、どこへボランティアに行かれたのか、教えてください。

S　はい、岩手県の陸前高田（りくぜんたかた）市に、八月一七日～二十日まで行ってきました。

Y　最初の印象はどうでしたか。

S　もう五ヶ月も経っていましたから、陸前高田市に入るまでは、普通の街という感じだったのですが、陸前高田市は津波の被害が大きく、街の家とか何も無い状態で、衝撃を受けました。実際行ってみるのとTVで見るのと全く違いました。ほこりが舞っていて、すごい状態で、胸がつぶれそうでした。奈良県から行ったT高校の人とも、現地へ行って活動することが大切だと話しました。

O　どんな仕事をしましたか。

S　街の家や建物が倒れていたので、木材や瓦などいろいろなものを分別しました。持ち主がいるので、写真とかはボランティアセンターに持って行きました。アルバムなどはもらいに来る人もいるので。家具や服、お金もあったけど、ボロボロになっていてとても使えない状態で、とにかくぐちゃぐちゃになっていました。

Y　被災された人とは話しましたか。

S　男子は、今言ったようにほとんど屋外での作業でしたので、特に話を聞くことはなかったのですが、ボランティアセンターで心構えは言われました。まだ、見つかってない、ご家族や友達がいることや、現地には日本各地からボランティアに来られているし、海外からも自費で来られていることなども聞きました。心強く思っていると話されました。実際に外国人の方が働いておられるのも見ました。気仙沼の方に行った女子の方が、児童館での交流会に参加して子どもたちと接しています。まだ、余震があり、女子はこわいと言っていましたが、子どもたちはもう慣れて、元気にはしていたそうです。

がれきの撤去（陸前高田市）

Y　被災者の方が、今ぜひ必要とされている物は、何かありますか。

S　直接は聞けませんでした。

O　みんなに伝えたいことは何ですか。

S　以前よりは復興していると言っても、まだまだ大変で、義援金活動やボランティア活動が必要だと思います。また、いつ何が起きるか、分からないので、後悔せず、今を大切に、精一杯生きていかないといけないと思いました。被災地に行って、当たり前でない光景が広がっていて、自分が生きていることが、すごく幸せなことで、改めて命の大切さを思いました。中途半端に生きるのは、申し訳ないと感じました。

Y　被災地で他にどのような方が活躍しておられましたか。

S　はい、崖に海水が含まれて、地盤が弱くなっているので、消防士さん達が木を倒していました。現地で活動しておられる方々の姿を見て、人のために尽くす仕事に就きたい、人の力になりたいと思いました。

OY　ぜひ、人の力になってください。一つお願いですが、自分の命は大切にしてください。しっかり訓練をされて、安全には十分気をつけて、ご活躍ください。

S　はい、ありがとうございます。大丈夫です。（笑）

OY　大変お忙しいときに、こちらこそ、ありがとうございました。

Sさんは全校集会でも、高田商業生の前で自分の体験を話してくださいました。

Sさんは、「現地の方々に、無理をせず余裕を持って帰れる程度にやってください。一日でやろうとせず、リピーターとして、また来てくださいと言われました。また、現地をこの目で見て、肌で感じ、心にズシンとすごく重いものが来ました。今、みんなに伝えたいことは、この震災のことを忘れないでほしいということです。そして、今を感じ精一杯頑張って欲しいと言うことです。」と語っていました。このようなSさんのお話に大変感動して、今回のインタビューをお願いしました。

漁業用網の補修（気仙沼市）

※今回の被災地支援活動については、Sさんたち参加者の感想を中心に「『東日本大震災被災地支援』に関するボランティア活動報告書」としてまとめられています。奈良県HP（http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-25534.htm）に掲載されていますのでぜひ一度ご覧ください。

※掲載の写真は、右記の報告書からの転載と、引率を担当された奈良情報商業高校の喜多先生より提供していただきました。掲載をご快諾いただきました奈良県教育委員会生徒指導支援室、ならびに喜多先生に深く感謝いたします。

東北地方太平洋沖地震・東日本大震災

奈良県立高等養護学校　生徒会長（寄稿）

１９９５年１月１７日(火)　５時４６分、阪神淡路大震災はおこりました。私は当時１才７ヶ月でした。奈良県五條市に住んでいました。お母さんに聞いたら縦にも横にもゆれていて、家が倒れると思ったぐらい強かったみたいです。びっくりしたそうです。

２０１１年３月１１日(金)１４時４６分１８秒に東北地方を中心に大きな地震、津波が発生しました。くるのは、分かっていたけど、予想以上でした。私はこのニュースを見て、とても悲しかったです。私でも悲しいから、実際に起きた人はもっと悲しいと思います。死者・行方不明者が２万人以上、避難者が９万１５５２人もいます。そして、親戚、友達、家族、ペットの犬を亡くされた方もいます。

その中で、一番大切な家族を亡くされたかたは、あるテレビのニュースで８人家族でした。それでお母さんもお父さんも兄弟が６人いました。そして、高校３年生の女の子一人だけが無事で残っていました。あとの人は、津波で流されてしまいました。「辛くて悲しい毎日ですが、亡くなられた方々の分まで頑張ります」と言っておられました。

そのニュースを聞いて、家族を亡くされて無事に一人が残って辛いです。がんばって下さい。おうえんしてます。

一日一日少しずつ復興できるように一生懸命にがんばって下さい。

そして、元のふるさとに戻ってほしいと思います。時間がかかると思いますが、戻れるように日本全体が協力してくれてます。そしてわたしはメッセージ、募金とかこれからはしたいと思ってます。

もう８ヶ月がたちました。何年かかるか分かりません。仮設住宅で少しずつすごして下さい。

私は、一人でも多くの人を助けたいです。みんなで協力して助け合いましょう。募金など協力したいです。私は、みんなで協力しあって、いつか、もとどおりにもどるように願っています。

本当に、日本頑張れ、頑張るぞ、日本。

１０月３０日(日)、高等養護学校第３６回若杉祭では、東日本大震災について調べた事や、奈良県の高田高校による陸前高田（りくぜんたかた）への支援ボランティア活動の報告を掲示しました。赤い羽根共同募金と東日本大震災緊急募金もしました。（原文中の、亡くなられた方の人数等は、当時報道された数字を使っています）

震災についてみんなで考えよう！

奈良情報商業高校
高木　寿梨

私たち人権クラブは、七月二四日（日）に実施された高解研の夏期研修会で神戸市にある『人と防災未来センター』での研修をきっかけに、多くの人に震災について知ってもらおうと思い、文化祭で展示発表することにしました。

展示内容は、まず「地震の震度」と「マグニチュード」などの基本的な事柄、さらに「気象庁震度階級関連解説表・地震の安全チェックポイント図」など模造紙にまとめました。さらに、『非常持ち出し品を準備しよう』をテーマに、災害時に備えた「非常持ち出し袋」とその中身も実際に展示しました。

「非常持ち出し袋」の中身としては、「五穀米」「水」「カンパン」などの食料品と、懐中電灯・ローソクなどがメインです。五穀米は、常温で長期保存ができるので、非常時の備蓄食料としては大変便利です。水は「五年保存水」と呼ばれるものがあり、これを入れておけば五年間は安心です。カンパンは備蓄食料としておなじみですが、こちらも五年間保存ですので大変便利です。また、小さな子どもさんがいる家庭で必要なものとして紙おむつ、ウエットティッシュ、ブランケット、母子手帳なども展示しました。特に、赤ちゃんのいる家庭には必需品です。断水状況になれば、ウエットティッシュがおむつ替え時の必需品となります。多めに準備しておけば、赤ちゃんだけでなく家族みんなが使えます。ブランケットは、体温を一定に保つために必要です。

文化祭当日、展示を見に来てくださった人に、非常持ち出し袋に入れておきたい物の一覧を書いたチラシを配布し、カンパンの試食もして頂きました。多くの方に、災害のことや非常時に必要な持ち物などを伝えることができ、少しですが震災への意識や関心を高めてもらえた展示だったと思います。

編集後記

◆フリーダムも第八号を数えることになりました。前回は「編集後記」のスペースがありませんでしたので、ちょっと紹介です。今年度の編集スタッフは、奈良情報商業高校・高田商業高校・帝塚山高校の三校、二十名でスタートしております。なかなか全員そろう機会はありませんが、それぞれ校内でも、メンバー同士や顧問の先生と相談しながら、取材や執筆をすすめてくれています。

◆今回の第八号では、高等養護学校の生徒会より、原稿を寄せていただきました。被災された方々への支援の輪を広げてゆくこと、困難に立ち向かおうとされる人々に思いを寄せることの大切さは、今後も変わりません。他の記事も、今回は震災に関わるものになりました。被災地でボランティア活動に従事した皆さん、奈良の地で募金や展示に取り組んだ皆さん、それぞれが自分たちの体験を通して伝えたい思いを、受け止めてもらえれば幸いです。

高校生の人権広報誌
“Freedom”第８号（2012 年 1 月 11 日発行）
編集　“Freedom”編集スタッフ
発行　奈良県高等学校人権教育研究会
〒630-8133　奈良市大安寺 1-23-1
奈良県解放センター内
TEL 0742(62)5555　FAX 0742(62)5568
E-mail kodokyo@kcn.ne.jp
HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/
※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。
※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。（「高人教」で検索してください）
※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。